

令和7年第9回大竹市教育委員会

1 開催日時 令和7年9月26日（金） 9時30分開始

2 会 場 大竹市役所3階大会議室

3 出席及び欠席委員

教育長	小 西 啓 二	出席
1 番	池 田 良 枝	出席
2 番	小 城 和 之	出席
3 番	市 川 洋	出席
4 番	山 田 洋 子	出席

4 出席職員

教育次長	柿 本 剛
総務学事課長	大 井 一 徳
総務学事課	重 安 千 陽
	浅井田 展 彦
	丸 茂 宣 潔
	樫 野 直 也
	須 藤 颯 太
生涯学習課長	川 村 恭 彦
生涯学習課	松 岡 文 明
	武 田 宜 裕

.....

【開会時刻 9時30分】

小西教育長 定足数に達していますので、これより令和7年第9回大竹市教育委員会会議を開会します。

はじめに、議事録署名委員を指名します。議事録署名委員は、大竹市教育委員会会議規則第15条第2項の規定により、山田委員を指名します。

これより本日の日程に入ります。日程第1「会期の決定について」を議題とします。会期は、9月26日一日限りとします。これに異議ありませんか。

委 員 一 同 異議なし。

小西教育長 異議なしと認めます。よって会期は本日一日間と決定しました。

議案第28号 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について

小西教育長 日程第2「議案第28号 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について」を議題とします。事務局から説明を求めます。

事 務 局 「地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第1項」の規定により、教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを市議会に提出するとともに、市民へ公表することが義務付けられています。この点検及び評価は、市民への説明責任を果たすとともに、より効果的な教育行政を推進するために実施内容を市民

に周知することを目的としているものです。大竹市では、令和3年3月に「大竹市まちづくり基本構想」を策定し、概ね30年後を想定したまちづくりの理念や実現したい将来像を示しており、この基本構想を踏まえて、「第1期大竹市まちづくり基本計画」を策定しています。この基本計画では、分野別個別施策の「取り組みの方針」に沿った「主な事業」を掲載し、実施計画では、この「主な事業」の計画期間における具体的な取り組み内容と事業費、数値目標などを定めています。教育委員会では、一般行政と教育行政の調和を図る観点から、第1期基本計画の実施計画事業として掲載し、令和6年度に実施した事業の中から事務の点検及び評価を実施することとしており、事業ごとにその目的または目標に照らし合わせて観点ごとに評価しました。実施方法は、評価シートによって教育委員会事務局で自己評価を実施し、学識経験者である外部評価専門委員に、事務局の評価を踏まえてのご意見をいただくという方法をとりました。全体的な判定結果を見ると、評価項目毎の判定結果は昨年度と同様になりました。事業の有効性の観点では、おおむね目標値を達成したことにより、全ての事業で判定結果A又はBとなっており、一定の効果を得ている結果となっています。評価結果を踏まえ、事業の目的を達成するため、効果的な事業の実施に努めるとともに、社会情勢や市民のニーズを把握した事業展開を行うなど、目的達成に向けて積極的な取り組みが必要と考えています。今日は、点検及び評価を行った9事業のうちから事務局において抜粋した、2事業について説明させていただき、ご意見をいただきたいと思います。その後、特にお聞きになりたい事業がありましたらご発言いただき、事務局から説明させていただきたいと思います。

事務局 事業番号②、教育推進事業（ICT活用事業・指導体制の充実・小中学校の連携）について説明します。まず、1の事業概要についてです。取組方針として3点挙げています。1点目は「9年間の教育活動を見据え、小学校と中学校の連携を強化する」、2点目は「児童生徒が主体的に学習課題に取り組むことができるように、1人1台学習用端末の効果的な活用を行う」、3点目が「教員研修を実施し、児童生徒個々の理解度や発達段階に応じた計画的、継続的な学習指導や生徒指導の充実を図る」、これらのことにより、4年間で実現したい姿を、児童生徒が主体的に学習に取り組む環境が整い、社会で生き抜く力やコミュニケーション能力を身につけるための学校教育活動が行われることとしています。次に、2の実施状況についてです。児童生徒が授業で学習者用端末を効果的に活用できるための研修やICTを活用した授業研究、情報モラル研修を実施し、授業や家庭学習での効果的な活用のあり方について、市内の学校で共有する等の取組を行いました。学習者用端末の活用によって、児童生徒の主体的な学びに繋がったと感じる教員の割合は89%で、目標値には届きませんでした。総務学事課職員が学校訪問や校内研修等において指導助言を行いました。教職員を対象に様々な分野の研修を実施し、教職員の資質・能力の向上に取り組みました。指標を「授業観察等のために各学校を月1回以上訪問した学校または市主催の研修会に参加した学校の割合」とし、目標値を100%としていましたが、学校訪問等で指導助言ができていない月があり、実績値は93%となっています。さらに、小中学校の連携では、9年間を通した教育活動の充実に向けて、合同研修や教職員や児童生徒の交流を行いました。中学校区における小中学校の連携では、毎月1回以上実施している学校の割合の実績値は100%となっています。次に、3の自己評価及び方向性についてです。まず算定結果について、有効性のうち目標値については、実績値が目標値に達していない項目もありますが、学校教育目標を小中

共通として、様々な教育活動において小中連携を図り、研修会を開催する等教職員の力量の向上に繋げる取組を行っていることから、B判定としています。目指す効果については、各校ごとにICTを活用した授業研究や教育委員会主催の研修会を実施することにより、ICT活用の普及が進んでいることから、A判定としました。引き続き授業でICTをより効果的に活用できるよう取り組んでいきたいと考えています。効率性についてはタブレット、デジタル教材等の導入により、全ての児童生徒の考えを把握できるようになる等の効果が出ています。活用に困難さを感じる教職員がいますが、ICT支援員の専門的な立場からの支援により安心して授業ができていることから、A判定としました。必要性については、現在行っている取組を継続して行うことで、教職員がICTを効果的に活用し学習指導等を充実させていますが、引き続き主体的な学びとなるように取り組む必要があるため、B判定としました。方向性については、事業の実施は継続、方法は現状を基本とするとしています。9年間の教育活動を見据え、個々の理解度や発達段階に応じた計画的・継続的な学習指導や、生徒指導を充実させるために、大竹市内の各種研修会を年間20回以上実施しています。また、その研修会を通して小中学校や同校種の連携を行い、引き続き教職員の指導力の向上を図りたいと考えています。児童生徒の1人1台学習用端末の効果的な活用を図ることで、児童生徒が主体的となる授業の実現を目指しながら、学習活動の充実を図ってきたいと考えています。委員の方々からは、「学習用端末を活用した主体的な学びを実現することは、難易度が高い。児童生徒の方が端末の使い方に慣れるのが早い中で、全ての職員が端末を活用した授業ができるように研修を実施する等ICTを効果的に活用するための努力を今後も継続してほしい。」といった意見をいただいています。

事務局 事業番号⑤、学校連携・子どもの居場所づくり事業について説明します。初めに、事業概要についてです。取組の方針としては、地域と学校との連携を強化することで、新たな指導者や協力者を発掘し、公民館や学校の空き教室等を活用した放課後子ども教室や、長期休業中等に開催するらんらんカレッジ事業の充実に取り組めます。4年間で実現したい姿としては、地域と学校の協働により子どもたちの成長を支える体制ができていて、児童が安全に放課後や長期休暇を過ごせる場所や学習する機会が充実していることとしています。続いて実施状況についてです。取組内容としては、令和5年度に参加者が見込めない教室や短期間の教室を3つ取りやめ、引き続き9教室の実施としました。スポーツ教室を中心に人気があり、延べ参加者数が120増加しています。おおたけっ子らんらんカレッジは夏の教室数が増え、50教室の実施ができました。なお、アンケートでは96%が満足と評価しています。続いて自己評価及び方向性についてです。判定結果の評価項目のうち目標値については、おおたけっ子らんらんカレッジで4教室増えたため、目標値に達しています。放課後子ども教室は昨年度の見直しにより目標値には達していませんが、延べ参加者数は増加しており、全体として効果的な運用ができていてと考え、A判定としました。目指す効果については、地域の人材・団体・生涯学習グループ・ボランティア・企業と連携し、学びに繋がる講座等を展開することができたと考えて、A判定としました。費用対効果については、限られた予算内で教室運営及び多くの貴重な学習機会を提供できていると考え、A判定としています。事業手法については、いずれの教室も好評を得ており各教室運営者も維持できていますが、全体を運営するコーディネーターの育成を図る必要があるため、B判定としています。方向性については、事業の実施は継

続、方法は現状を基本とすると考えています。評価委員からは「らんらんカレッジの教室数が増加しており、内容も充実しているため参加人数が多くなっていることは大変評価できる。地元企業等が講師となることで、企業の育成の意味でも効果があるのではないか。教室数を増やすのも良いことだが、積極的に参加者の意見を取り入れ、より一層の中身の充実を図ってほしい。」との評価をいただいています。放課後子ども教室やおおたけっ子らんらんカレッジ事業は、今後学校運営協議会や児童クラブと連携する必要が生じる可能性があります。各学校の課題に対応できるよう、地域活動の担い手として、コーディネーターの育成と配置を図りつつ、事業を行っていきたいと考えています。

小西教育長 これより質疑に入ります。まず事業番号②の教育推進事業について質疑はありませんか。

池田委員 端末が全員に配布されていて、それがよく活用できていると思います。ただ電子黒板の数が少ないため活用できていない部分があると思います。電子黒板も年々進化していて、なかなか買い替えは難しいと思いますが、もう少し数が増えれば端末の活用ももっとできると思います。もう一つ、主体的な学びと何度も出てきて、それを感じる教員の割合も高いパーセンテージを占めているのですが、主体的な学びとはどういうものをイメージしているのか、繋がったと先生方が感じるのはどういう場面なのか、分かれば教えてください。

事務局 おっしゃる通り、電子黒板については導入がすこし少ないと考えています。今モニターを使っている状況ですが、できれば電子黒板を導入していきたいと考えています。

小西教育長 コストがかかるものなので、計画的に見通しを持って整えていきたいと思っています。

池田委員 電子黒板は今どのくらいの数ありますか。1つの階に1台ずつくらいでしょうか。

事務局 正確な数は今持ち合わせていないのですが、ない学校もあります。玖波小学校にはあるのですが、他の学校はもう古くなったものや活用できていないものもあります。できるだけ早く導入していききたいと思うのですが、計画的に進めていききたいと考えています。

市川委員 ICTの一つの課題として、今人権擁護委員をしているのですが、色々な相談がLINEを通してきます。そうすると、子どもからも相談が入ってくるのですが、調べたら授業中でした。授業中に好きなように使えるので、それで相談が入って来ることがあります。自由に使えることは良いことなのですが、取扱いは今後どのように対応していくかが必要になると思いました。また、先日新しいノートパソコンを買いました。それでびっくりしたのが、最近のノートパソコンにはAI機能が入っているので、昔のパソコンと全然違います。今電子黒板の話が出てきましたが、4年、5年経つとまたガラッと変わっていると思います。技術の進化がすごいので、教員の研修もしっかりとやらないと追いついていけないと思います。子どもの方がずっと使っているわけで、公民館やコミュニティサロンに行くと、遊んでいる様子を見ると子どもが1人1台もって遊んでいます。研修についても、教員が遅れないように進めていく方法を考えることが大切だと思います。

小西教育長 取扱い方や技術の進化についても、対応できるようにこちらも考えていきます。研修等も進めていきたいです。

事務局 主体的な学びについては、まず子どもが意欲的に学習に参加することが大事

だと考えています。ただ、楽しければ良いわけではなく、授業にはねらいがありますので、教師側としては、意欲的にやっているのですが、子どもがどんな力をこの授業でつけていくか、また単元を通してどうステップアップしていくのかを見ていくといった点を、研修で深めていっています。

小 城 委 員 I C T の活用によって4年間で実現したい姿の中に、社会を生き抜く力とコミュニケーション能力を身につけるとありますが、どのようにやっていくかが明確ではないから、全ての評価が100%にならないのではないのでしょうか。取組内容を見てても、事業の実施が今後も継続・現状を基本とあるので、取組は変わらないのだと思うのですが、実績の中の主体的な学びに繋がったと感じる教員の割合が下がっているのは、問題だと思います。ここ3年間で1%から5%下がっていて、数字が下がるのはテコ入れが必要なのではと思います。何年もやってきて教員の見る目が厳しくなったのもあると思うのですが、それを想定して取組内容を改善する必要があると思います。事業費も4年から5年にかけて倍増していますが、先ほどの電子黒板のこともそうですが、端末を配布する時は国の事業でもあり、一気に1人1台端末を配布できたと思います。先ほど答えていただいた中に、学校によって有る無いといった格差とまではいかないとは思いますが、実情としては物理的な差があることは否めません。端末を配布した時と同じような形で、電子黒板の普及も大事だと思います。各教室に1台が難しいならば、例えば理科のような教室を離れて行う授業で使用するために、各校で2、3台を配備するといった形でやってみてもらえたらと思います。大竹市内の中で子どもが転校した時に、前の学校ではあったのにということがないようにするのも大事です。進捗具合の違いはあると思いますが、子どもには感じさせないような教育活動が大事だと思います。また、主体的な学びの説明をしていただいたのですが、実際のところは解釈が難しいところです。コミュニティスクールの時もそうでしたが、書面の中の文章は基本的に大人が作る文章で、それを子ども達にどうやって浸透させていくか、言葉遣いや表現を子ども達に伝わるような形でやってもらえたらと思います。例えば、子ども達に主体的な学びが何か分かるか尋ねても、おそらく何だろうと答えるのではないのでしょうか。先ほど答えていただいた中の、意欲的に取り組む姿勢のことや、ステップアップしていくことだと平日頃から伝えていかないと、端末を配って終わりではなく、あくまでも手法の1つなので、そこからどのような効果が得られるかは、しっかりと分析する必要がありますし、このような評価をもっとスピードを上げて行う必要があると感じました。

小西教育長 子どもの姿からどのように取り組むか、どのように改善するかを考えていくことが、学校に任された大きな仕事になります。行政としても、公平・公正であることがとても大事になってきますので、その辺りを踏まえてやっていきます。続きまして、事業番号⑤の、学校連携・子どもの居場所づくり事業について、質疑はありますか。

小 城 委 員 子どもの居場所づくり事業はすごく大事な事業だと思います。背景として、子どもが家庭での居場所がないとまでは言えませんが、よりどころがあるのはとても価値があることです。なおかつ参加者が増加傾向にあり、教室数も増えているので、とても良いことだと思います。学校以外で夏休みや放課後を、子どもが安心して過ごせる環境は、これからもどんどん増やして欲しいですし、コミュニティスクールとの連携を強化していく必要や、コーディネーターの配置を含めて検討していただいていることなので、しっかりと注力していただき、子ども達が笑顔で過ごせるような取組をどんどんやってもらえたらと思います。子どもの数が

減っている現状は現実としてあるので、その中で子ども達が満足して楽しく他の学年、クラスの子と接する機会があり、なおかつ社会の大人と関わる機会も得られるのも貴重な体験だと思いますので、どんどんやっていただければと思います。

山田委員 放課後こども教室に子どもが参加していたのですが、様々なプログラムがあり、1年間のプログラムをもらった時に色々な企業や、地域の方が協力して色々な内容を実施していただき、参加人数も増えているとのことなので、これからも充実したものを作っていただきたいです。

小西教育長 より充実したものを作っていききたいと思います。

事務局 ありがとうございます。この方向性で進めさせていただきます。数も55教室と多くなってきました。人気が高く、断らないといけない子どももいます。優先順位をつけてもらい第6希望くらいまで出してもらっているのですが、それでも抽選の結果、全て落選となる子どももいます。できればもう少し枠を広げていきたいですし、内容もアンケート等で精査しながらやっていきたいです。

小西教育長 それでは、この2事業以外で質疑があれば、お願いします。

池田委員 事業番号①の幼保小連携事業について、これからどんどん大事になっていきます。議会の中でも取り上げられたようなのですが、昔は不登校の原因として中1ギャップがあったのですが、今は小学1年生になる時に不登校が増える小1ギャップが全国的に見られるので、その解消のために幼保小連携事業が大事だと思います。今見ると、子ども同士の交流や、先生同士の研修・交流はしっかりとやっているようですが、教育内容について、小学校でこんなことをするから幼稚園や保育所で何をすれば良いかといった辺りまで突き詰めて話をしているかどうか教えてください。また、小学1年生の不登校の実態が分かれば教えてください。

市川委員 事業番号⑤の学校連携・子どもの居場所づくり事業に戻りますが、取組内容の中にスポーツ教室を中心にとあるのですが、広島ドラゴンフライズを玖波小学校に呼んで一緒にスポーツをする計画を立てています。有名なチームを呼ぶことによって、子ども達に影響を与えることがあると思います。テレビでも世界陸上があったのですが、これを見た子ども達がまた変わっていくと期待しています。30年ほど前は、スポーツ教室は陸上等に力を入れている先生、地域の有名人等のスポーツに力を入れる方々が中心となり、子ども達にとってもスポーツはすごく力を発揮していると思います。広島県の陸上大会に大竹市からも連れていったことがあるのですが、歴然とした地域差がありました。東広島はユニフォームを着て陸上用の靴を履いて、走る前の歩数も測っていてきちんとしていました。あの時の大竹は、普通のビニール靴を履き、歩数を測っているのを見て、何をしているのかと尋ねてきました。やり方もよく分かっていなかったようで、スポーツも力を入れないといけないと思いました。かつて大竹も駅伝で10連覇していたりと盛んな時期があったので、その時のことを見直して、スポーツに力を入れていくことも必要だと思います。

小西教育長 社会体育の方向からも、いろいろな企画をしていきたいです。

事務局 池田委員の教育内容についての連携の質問についてですが、毎年6月ごろに小学校区で幼保小連絡協議会を開催しています。入学してきた1年生の様子も幼稚園、保育所の先生方に見ていただけるよう、小学校と連携を取りながら、行っています。接続カリキュラムも実態に応じて、4月は何をすれば良いかを小学校と連携を取りながら、どのような生活をすれば良いかのプログラムを作っています。また、年間を通して1年生に対してどのようなことをすれば良いかを考えて作っています。ただ、実態は毎年少しずつ変わっていますので、小学校、幼稚園、

保育所との連携を取りながら、カリキュラムを改善しているところです。

池田委員 カリキュラムの中で学校はそうにしていると思うのですが、幼稚園や保育所の方で、小学校1年生の生活と幼稚園や保育所の生活は全然違うので、そのためにどのようなことをしておけば良いかといった点を突っ込んで話ができるのでしょうか。

事務局 そこまで踏み込んだ状況を把握していなかったもので、情報を集めておきます。
事務局 不登校数について、小中あわせてずっと増えており、令和5年度が70人、令和6年度が74人となっています。低学年の人数の資料が今手元にはないのですが、今までゼロだったものが大竹市においても、1桁ではあるが低学年から不登校になっている児童がいると報告が来ています。一人ひとり色々な背景があり不登校の理由も千差万別なのですが、一人ひとりに寄り添って早く学校に戻れるよう、働きかけていきます。

小西教育長 大きな課題として捉えていますので、委員の皆様のご意見等も聞きながら、取り組んでいきます。

小城委員 事業番号④の食育の推進について、物価高騰もありどうしても予算がかかってしまいます。中身を見てみると不漁や不作もあり、地元の産物がなかなか給食に活かされないことがあり、これは仕方ないことだと思います。ですが、給食は子ども達も食べたいと思っていますし、大竹市は無償化もしていますので、地元の食べ物を精査し提供していただければと思います。何年か前にコンテストがあったと思うのですが、各クラス・各学年・各学校等で子ども達同士で考えてもらって、その年は無理でも次の年に給食のメニューに入るといったイベントがあっても面白いのではないのでしょうか。自分たちが考えたものが給食のメニューに出るワクワク感があると思います。自分の中で給食は大きな要素で、食べることを楽しみにしている子どもも少なくないと思いますので、しっかり充実させていきたいです。それに伴い、仕入れ業者や納入業者の努力があるのは承知しているのですが、無償化で大きな恩恵を受けているので、イベント的な部分も含めて充実させていただければと思います。

池田委員 大竹の給食は自慢だと思っています。無償化ももちろんですし、地元のものが使いにくくなっている状況にありながらも美味しいものを作っていただいています。他市町の給食のことを聞いていると、まだまだきちんと普及していない地域もあります。大竹の給食は美味しいと思えるくらい、他の地域に自慢できるものだと思います。SNSやFacebook等いろいろなところでは発信していただいているのですが、もっと一般の市民、高齢者にも目立つようなアピールができたらいと思います。広報にもイベントは掲載されるのですが、もっと掲載していただければと思います。以前は市内のスーパーに献立があったりしたのですが、最近見かけないと思っています。

事務局 ありがとうございます。イベントについて、コンテストといったものは実施していませんが、総合的な学習の中で取り入れていますので、アレンジしていただけたらと思います。スーパーへの献立の配架は、保健医療課が実施していますので、継続して実施していきます。Facebookで毎日発信しているのですが、それ以外の紙面での発信は、イベントについては実施しています。情報発信については今後も研究・検討していきます。

小西教育長 多くの方・世代に発信できる、興味を持ってもらえるように、今後も考えて行きます。他に質疑はありますか。

委員一同 なし。

小西教育長 質疑を終結します。本件を採決します。本件は原案のとおり可決することに異議ありませんか。

委員一同 異議なし。

小西教育長 異議なしと認めます。よって、本件は原案のとおり可決されました。

議案第29号 大竹市指定重要文化財の指定について

小西教育長 日程第3「議案第29号 大竹市指定重要文化財の指定について」を議題とします。事務局から説明を求めます。

事務局 大竹市文化財保護条例第4条第1項の規定に基づき、大竹市指定重要文化財として「小方しのび奴」を指定するものです。令和6年4月4日付けで、小方郷土保存会代表者小西正則氏から文化財指定申請書が提出されたことに伴い、令和6年4月の教育委員会定例会で審議の結果、大竹市文化財審議会への諮問が決定されました。文化財審議会ではこれまで幾度かの審議と調査を経て、令和7年9月11日付けで同審議会会長から指定重要文化財に値する旨の答申書が提出されました。別添の写真と広報記事をご覧ください。「小方しのび奴」について簡単に説明します。「小方しのび奴」は、亀居城内にある厳神社の秋季例大祭の神幸行列において神輿を先導する奴行列であり、明治時代になり秋季例大祭の行事とともに、小方の地域住民たちによって継承されてきたと考えられています。指定すべき理由について文化財審議会からの意見としては、「掛け声もなく槍も交代しないで静寂の中を一糸乱れることなく粛々と進んでいく様は、大竹祭りや玖波祭りの奴行列とは異なる独特なものである」、「祭り前夜には江戸時代に割庄屋を務めた和田家を訪問し、大目付奴の槍と衣装を借り受ける儀式が、今なお執り行われていることも、他の地区では見られない伝統が残されていること」等が挙げられ、小方地区の伝統ある民俗芸能としての奴行列を後世に引き継いでいくため、小方しのび奴を大竹市指定重要文化財に指定することは適当であるとされています。このことを受けまして、「小方しのび奴」を14番目の大竹市指定重要文化財として指定したいと考えます。

小西教育長 これより質疑に入ります。質疑はありませんか。

池田委員 大竹と玖波がこの指定を受けていたと思うのですが、小方が指定を受けていなかったの、指定を受けていないか尋ねたことがあります。その際、申出がなかったと言われたので、この度申出が出たので嬉しく思います。前夜の儀式のことは知らなかったし、広報を読んでも和田家の前で休憩をとるとありますが、儀式のことは書いてなかったので、どこかで儀式のことも取り上げて欲しいです。

事務局 この度の指定が決定したら報道発表を行うのですが、市のホームページでも紹介をしたいと思います。「小方しのび奴」はこのような行事であり、伝統的なものだと思ってもらえるように努めていきます。

小城委員 自分自身も玖波の奴に再来週関わるのですが、奴や神輿もそうなのですが、祭りに携わる地元の皆様の郷土愛が、良い方向に寄与しているのは間違いないと思います。これで重要文化財の無形文化財が3つになるので、それぞれの学校の子ども達にアナウンスをしてもらいたいです。授業で取り上げるのは難しいかもしれませんが、総合的な学習の中で扱うのが良いと思います。小方の小中学校は昔平地にありましたが、今は高台に移って物理的な距離感があり見に行く子どもは少ないかもしれませんし、神輿をやっている人に聞くと小方は人が少ないと答

えています。地理的に仕方ないことかもしれませんが、小方学園の子ども達には、地元の祭りのことを親御さん含めて伝えてもらえれば、地域で祭りに携わる皆様が誇りをもっていただけるのではないのでしょうか。子ども達が楽しめると同時に、おじいちゃんおばあちゃんが昔はこうだったと思い出してもらえる機会にもなると思います。せっかく指定を受けることになったので、今後の周知をしっかりとお願いします。

小西教育長 先般議会でも答弁したのですが、次の世代につないでいくことが大きな仕事の一つとなりますので、ご意見を聞きながらそうだなと思っています。しっかりと繋いでいきます。他に質疑はありますか。

委員一同 なし。

小西教育長 質疑を終結します。本件を採決します。本件は原案のとおり可決することに異議ありませんか。

委員一同 異議なし。

小西教育長 異議なしと認めます。よって、本件は原案のとおり可決されました。

報告第21号 大竹市奨学金貸付審議会委員の委嘱について

小西教育長 日程第4「報告第21号 大竹市奨学金貸付審議会委員の委嘱について」を議題とします。事務局から説明を求めます。

事務局 大竹市奨学金貸付審議会は、大竹市奨学金貸付条例第12条の規定に基づき、奨学金の貸付、返還猶予及び返還免除の決定について、審議する機関として、大竹市附属機関の設置に関する条例の規定により設置され、市議会議長など計9名で構成されています。このたび、市議会総務文教委員長の交代があったため、新たに委員に委嘱する必要がありましたが、緊急を要し教育委員会の会議を招集する時間的余裕がなかったため、教育長において臨時に代理し委嘱したものです。新たに委嘱したのは、市議会総務文教委員長に就任された中川智之様です。委嘱した日は令和7年9月10日で、委員の任期は「当該職に在任する期間」となっています。

小西教育長 これより質疑に入ります。質疑はありますか。

委員一同 なし。

小西教育長 質疑を終結します。本件は報告事項です。報告のとおり承認することに異議ありませんか。

委員一同 異議なし。

小西教育長 異議なしと認めます。よって、本件は原案のとおり承認されました。

報告第22号 大竹市地区体育委員の委嘱について

小西教育長 日程第5「報告第22号 大竹市地区体育委員の委嘱について」を議題とします。事務局から説明を求めます。

事務局 大竹市地区体育委員に関する規程第2条の規定により、各自治会からの推薦を教育委員会が委嘱しており、7月25日開催の第7回の定例会において、令和7年7月1日から令和9年6月30日までの2年間努めていただく委員101名の委嘱について報告し、承認をいただきました。この度、7月の選出の際に未

選出であった小方ヶ丘地区より1名の自治会推薦がありましたので、令和7年9月19日付で委嘱を行いました。現在小方地区ではグラウンドゴルフ大会や地区運動会等のスポーツ行事が盛んに行われており、地区体育委員の役割は大変重要であると認識しています。これからの各行事に速やかに携わっていただくために直ちに委嘱することが適当と判断し、緊急やむを得ないと認め、教育長において処理させていただきました。なお、この1名の委嘱により、小方地区の地区体育委員は当初の28名から29名となり、全体では当初の101名から102名となっています。

小西教育長 これより質疑に入ります。質疑はありませんか。

委員一同 なし。

小西教育長 質疑を終結します。本件は報告事項です。報告のとおり承認することに異議ありませんか。

委員一同 異議なし。

小西教育長 異議なしと認めます。よって、本件は原案のとおり承認されました。

協議・報告事項 令和7年度学力調査の結果について

小西教育長 日程第6「協議・報告事項 令和7年度学力調査の結果について」を議題とします。事務局から説明を求めます。

事務局 令和7年4月に小学校第6学年及び中学校第3学年を対象に、小学校は国語・算数・理科、中学校は国語・数学・理科の調査が実施されました。まず、1平均正答率等です。市の平均・県平均・全国平均については、表にあるとおりです。小学校は、国語・算数・理科の正答率が高く、県及び全国平均を上回っています。中学校は、国語の正答率が高く、県及び全国平均を上回っています。数学は、県平均より高く、全国平均を下回っています。中学校理科については、C B T調査というコンピュータを使った試験方式で、共通問題6問、学校により異なる問題4問、生徒ごとに異なる問題16問、合計26問で構成されており、他教科のように平均正答率で比較できないため、項目反応理論という統計理論で学力を推定したI R Tスコアによる表示になっています。I R Tスコアは各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。このI R Tスコアで比較すると、中学校の理科は、県及び全国平均を下回っています。続いて、2 結果の分析についての「学力調査の結果について」には、教科ごとに課題のあった問題の概略を載せています。これらの調査結果を受けて、「今後に向けて」ということで、学力向上につながる授業づくりに向けて、今後、特に取り組むこととして、次の3点を挙げています。1つ目は、基礎的・基本的な学習内容の定着です。定着に課題のあった内容のつまづき等を分析し、該当の学年だけでなく、そこにつながる学習についても、関係学年で系統的に、繰り返し指導を行うようにしていきます。特に数学の「数と式」・「図形」領域、理科「生命」を柱とする領域は課題が見られますので、繰り返し指導を行い、基礎的・基本的な学力の定着を図っていきたいと考えています。2つ目は、記述式の問題において、正答率が低かったり、無解答率が高かったりするため、授業で記述をする場面を設定します。また、課題の解決に向けて、様々な思考、判断をし、それを表現する場を設定することで、思考力・判断力・表現力の向上につなげていきます。3つ目は、「できた」「わかった」と感じる授業づくりです。授業のめあて

を明確に示し、この授業で何ができるようになったらいいのかを児童生徒と確認した上で、授業後に「何がわかったか」「どんなことができるようになったか」といったいいねいな振り返りを行うことで、児童生徒が「できた」「わかった」と感じ、「主体的な学び」に向かうようにしていきます。次に、教科に関する問題の調査結果の概要についてです。教科ごとに、正答率の高かったものと低かったもの、そして無解答率が高い問題について記載していますが、本日は、課題の中からいくつかを取り上げて説明いたします。（１）小学校国語では、学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる問題の正答率が高かったですが、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができかどうかをみる問題では正答率が低かったです。正答率下位２問のうち設問③三（１）は、「目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができかどうかをみる」問題です。広島県・全国も正答率が低い問題で、２つの資料に書かれていることを読み取り、それらを結び付けて捉えることができなかつたと考えられます。次に設問③三（２）も、「目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる」問題です。この問題は、無解答率が１２．４％と高かったです。記述式の問題で、条件に合わせて書くことが難しかったと考えられます。続いて、（２）小学校算数です。算数では、 $1/2 + 1/3$ を計算する問題は正答率が高かったですが、 $3/4 + 2/3$ について、共通する単位分数と、 $3/4$ と $2/3$ が、共通する単位分数の幾つ分になるかを書く問題や、五角形の面積を求めるために五角形を二つの図形に分割し、それぞれの図形の面積の求め方を書く問題では正答率が低かったです。正答率下位２問のうち、③（２）は、「分数の加法について、共通する単位分数を見だし、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる」問題です。正答は、 $3/4$ と $2/3$ に共通する単位分数が、 $1/12$ であることを表す数や言葉、 $3/4$ と $2/3$ が共通する単位分数の幾つ分かを表す数や言葉を書いているものです。誤答の多くは、通分について書いているものでした。また、無解答の児童も多く１５．１％でした。続いて、（３）小学校理科です。理科では、ヘチマの花のつくりや受粉についての知識が身についているかどうかをみる問題は正答率が高かったですが、身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引きつけられる物があることの知識が身についているかどうかをみる問題、レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし、表現することができるかどうかをみる問題では正答率が低かったです。正答率下位２問のうち、③（４）は、「レタスの種子の発芽の結果から、てるみさんの気づきを基に、見いだした問題について書く」問題です。正答は、条件を１つ選び、レタスの発芽に関して疑問を示す趣旨で記述しているものです。誤答の多くは、条件の記述はあるが、レタスの発芽に関する疑問を示す趣旨の記述がないものでした。また、無解答の児童も多く１４．１％でした。次は中学校です。（４）中学校国語では、文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉えることができるかどうかをみる問題の正答率は高かったですが、文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる問題や、資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる問題で正答率が低かったです。正答率下位２問のうち③四は、「一 榎木の実」に書かれている場面が、「二 釣の話」には書かれていないことによる効果について、自分の考えとその

ように考えた理由を書く」問題です。正答は、どのような効果があるかを書いて、そのように考えた理由を文章の展開を踏まえて書き、物語の内容を適切に取り上げて書いているものですが、誤答の多くは、理由を文章の展開を踏まえて書くことができていないものでした。また、無解答率も高く、23.7%でした。記述式の問題で、自分の考えとその理由を書くことが難しかったようです。続いて(5)中学校数学です。数学では、必ず起こる事柄の確率について理解しているかどうかをみる問題は正答率が高かったですが、式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる問題や、統合的・発達的に考え、条件を変えた場合について、証明を評価・改善することができるかどうかをみる問題では正答率が低かったです。正答率下位2問の[9](2)は「平行四辺形ABCDの辺CB、ADを延長した直線上にBE=DFとなる点E、Fを取っても、四角形AECFは平行四辺形となることの証明を完成する」問題です。この問題はエ、オのいずれを選んでもAF=ECを正しく説明をすることができれば正答となりますが、多くの生徒が正しい証明を書き直すことができずに誤答となっていました。また、[9](3)「平行四辺形ABCDの辺BC、DAを延長した直線上にBE=DFとなる点E、Fを取り、辺ABと線分FCの交点をG、辺DCと線分AEの交点をHとしたとき、四角形AGCHが平行四辺形になることを証明する」問題では無解答が30.5%と高くなっています。四角形が平行四辺形となる根拠についての記述がない生徒が多くいました。続いて(6)中学校理科です。理科の共通問題のうち、科学的な探究を通してまとめたものを他者が発表する学習場面において、探究から生じた新たな疑問や身近な生活との関連などに着目した振り返りを表現できるかどうかをみる問題は正答率が高かったですが、水の中の生物を観察する場面において、呼吸を行う生物について問うことで、生命を維持する働きに関する知識が概念として身につけているかどうかをみる問題では正答率が低かったです。共通問題のうち、正答率が低い[1](4)は「生物1から生物4までの動画を見て、呼吸を行う生物をすべて選択する」問題です。この問題は生物1・2・3・4と全てを選択すると正答でしたが、誤答の多くは生物4を選択しないものでした。各学校では、調査結果をもとに、自校のできているところや課題を分析し、授業改善を図ろうとしているところです。教育委員会としても、今ご説明した分析内容を、校長会等を通して各校へ伝えるとともに、先にお話ししました、授業改善に向けての3つの視点について、繰り返し指導を行いながら授業改善を進めていくことで、大竹市全体の児童生徒の学力向上を図っていきたいと考えています。

小西教育長 これより質疑に入ります。質疑はありませんか。

小 城 委 員 それぞれの科目がどのくらいの時間で解かないといけないかは分かりませんが、国語、数学、算数含めてほしい同じような点数配分になると思います。集中力や読み続ける持続力が、どこまで頑張れているかが心配です。国語が文章を読んで解くのに対して、数学・算数も文章題が苦手になるのは比例しているのではないのでしょうか。その中で正解と不正解を探すのは、しんどくなっているのではないかと思います。学力調査なのでそれに向けて先生方が教えていらっしゃるのとは重々承知していますが、先生方がこの問題を見た時に満点を取って欲しいとは思わないかもしれませんが、先生方が普段の授業の進捗具合等を照らし合わせた時に、それぞれの指導方法が合っているか等の分析も必要かと思います。児童生徒自身の学力は数字で表されていますが、先生方の指導の仕方やICTのタブレットの使い方が、どのような効果なのかリンクしていると思いますが、先生方

の意見や意識も調査して分析する必要があります。I R Tや項目反応理論といった難しいことが取り入れられていることも私自身知らなかったのですが、生徒にとっては評価の方法は関係ないと思います。正答率の良い悪いもありますが、それぞれの苦手・得意をしっかりと見てあげる方が、全体的に良くなっていくと思います。いつも点数はあまり気にしていませんが、やり方や取り組み方は子どもだけでなく先生方も一緒になって考えて行く必要があると思います。その辺りはヒアリングなりアンケートなりをしっかりとやっていただければと思います。

事 務 局 おっしゃる通りだと思います。傾向として出てきていますが、ある資料と別の資料を両方見て関連づけて考えることもできていない事実があります。教師もその事実を基に、授業で全く同じ問題を扱ってもつまずいている子どもに取ってはつらい時間になるので、横に並べる等して比較的小スモールステップとして、まずはここを見ろといった親切な声かけもできると思います。そのようにして次ができるようになるといった見通しをもたせるやり方をしています。先生方の意見を聞くことも大変重要だと考えています。ただ結果で終わらせるのではなく、学校とのやりとりの中で究極的には一人ひとりをしっかり伸ばす意識で、教育委員会と学校でしっかりとやって行きます。

山 田 委 員 全国平均も広島県平均もそれほど大竹市の平均と差がないため、問題はないと思います。先ほどのお話でもあったつまずきで学習が遅れ気味にある子どもがいるならば、担任だけではなく学習をサポートするような補助員はいるのでしょうか。

事 務 局 教科担任も担任も学校としては総動員で、理想は授業の中で理解してもらうことなのですが、補充的な学習を行いできていなかったことをやっていただき、チームとして、色々な教員が関わっています。個別指導も各学校で行っています。

山 田 委 員 つまずいた子どもをなんとかついて行ける状況にすれば、平均点は確実に上がっていくと思いますので、引き続きよろしくお願いします。

池 田 委 員 点数だけにこだわってはいけないと思うのですが、以前の大竹の学力に比べると、全国平均や県平均を超える値が出てきているのは、先生方や教育委員会の努力の成果が現れていると思います。今年だけに限らず、これまでずっと記述式の問題が課題だと言われています。書く機会が減っていきタブレットも使うとなったら、ノート指導の時間もとれない状況になりすごく難しいと思います。一つは、記述の仕方のパターンを徹底的に行っているところもあります。日々の力をつけていく点もあるのですが、テスト対策といったところもあり、やっていくと点が伸びるようなので、日々の授業の中で取り入れていただければと思います。パターン化されているところもあると思います。それから先ほど小城委員もおっしゃっていましたが、読み続ける力について最近の読書はどのような状況なのでしょう。図書室は充実してきて漫画もOKとなっていると聞きます。子ども達の読む力・読むスピードも関わってくると思います。全体の点数で一喜一憂するのではなく、一人ひとりがどれだけ伸びているかが大事だと思います。各学校でやっておられるC R Tも重要にして、一人ひとりの伸びも認めてあげて、なおかつできていないところの支援をしっかりとさせていただきたいです。

事 務 局 読書について各学校も努力しており、読書活動推進員の力もあり、どの学校も様々な調査を見ても、読書は積極的で好きとのデータが出ています。引き続き取り組んでいきます。

市 川 委 員 学力・学習状況調査を見ると、大竹市の課題は重要度が高くなっていると思います。この結果や子ども達の活動を見ていると、読解力が大切だと思います。

どのように読んで、どのように答えを出していくか、それに加えて指導力もあり、読解力の低下を意識した学習過程・学習活動を、指導者が取り入れていかないと、学力は伸びていかないと思います。主体的な学びも大事ですが、キーワードは「探究活動」です。子ども達が課題を考え、それに対して子ども達の活動が結果となり、仮説を立てて結果がどうなったかを考える活動をどんどん取り入れないと、それを読んでいる県や地域はすでに導入しているので、このような調査で記述式の問題を作っても、きちんと書いています。大竹市の理科が平均よりも低いのは、そのような活動を日頃取り入れていないので、子ども達が何を書いたら良いのか分からない点が挙げられると思います。このような探究活動を中心に、指導者も意識しながら日々の学習に取り入れていかないと、おそらく次の調査もこのような探究を導く問題も増えてくると思います。当然国語等の他教科にも繋がってきますので、大竹市の課題の1つとして取り組んでもらえたらと思います。

小西教育長 皆様の意見を踏まえて、子ども達一人ひとりに力をつけていけるような教育活動を目指して行きたいです。その他どうでしょうか。

委員一同 なし。

小西教育長 質疑がないようですので、協議を終わります。

小西教育長 以上をもって、本日の日程は全て終了しました。

なお、本日の会議の議事録を作成するに当たり、各議題の審議内容について、字句、数字、その他の整理を要するものについては、その整理を会議の議長に委任されたいと思います。異議ありませんか。

委員一同 異議なし。

小西教育長 異議なしと認めます。よって、字句、数字、その他の整理は、議長である教育長で行います。

これにて、令和7年第9回大竹市教育委員会会議を閉会します。

【閉会時刻 11時00分】

.....